

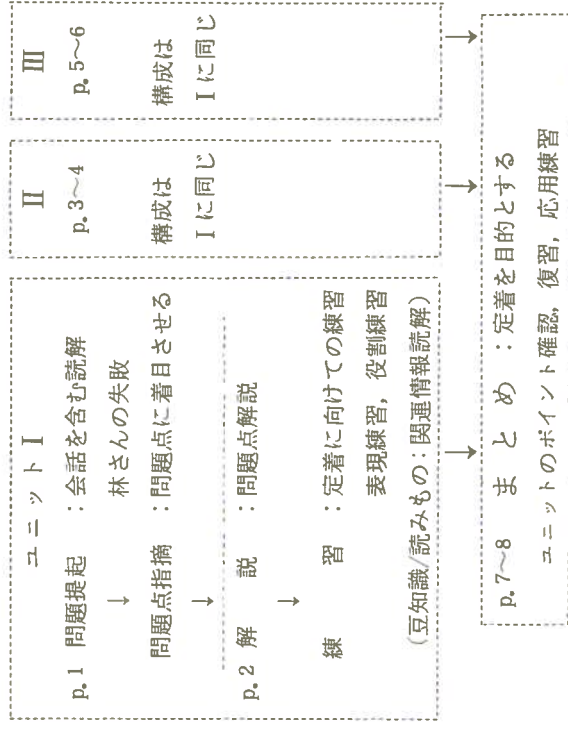
この教科書をお使いになる先生方へ：

教科書の目的

本書は、中級以上の日本語力を持ち、仕事で日本語を必要とするビジネスマン、あるいは、将来必要とする学生を対象としている。日本企業に勤める「林学誠」を主人公にし、職場での彼の失敗を問題提起として提示した。本書は、学習者が主人公の失敗を客観的に観察し、それを自分の問題としてとらえ、解決していく過程で日本のビジネスマナーと表現を習得することを目的とする。解答編があるので、自習用としても使用することができる。

教科書の構成

1. 基礎知識（その1～その8）：本課に入る前の基礎的な表現、マナーの紹介。
2. 本課（1課～8課）：各課、3つの【ユニット】と【まとめ】で構成。



3. 付録：本課を勉強するときに利用するものとして、参考になる情報をまとめた。
4. 索引：キーワードとなる語彙、表現を「あいうえお」順に提示。

本課の指導例 一 第1課 名刺交換（目的：名刺交換のマナーと表現を学ぶ）
一 学習者のレベルによっては、「基礎知識」の部分で学習者の家庭学習にまかせ、本課から授業を始めてもかまわない。

P.1 ユニット I の問題提起

ユニット I の1ページ目には、林さんが、名刺を片手で受け取った、名刺を受け取ると、すぐポケットにしまった、自分の名刺が少し汚れていた、など、マナーにおいて、表現においても不適切な応対をしている読解が出ている。

ここでは、問題となるところを学習者が考え、指摘する。指摘する内容は学習者によって違ってくるだろう。たとえば、名刺を片手で受け取ることとよしとする文化を持つ学習者であれば、この点を指摘しないだろうし、名刺そのものが無い文化から来た者は、他の者とはまったく違う側面を取り上げるかもしれない。ここでの教師の役割は、学習者が指摘した点を整理し、名刺交換に対するさまざまな文化や価値観の差異を踏まえた上で、次の解説へとすすませることである。

問題提起の与え方

問題提起の部分は、会話を含んだ読解となっているが、学習者のレベルによっては、担当教師が会話部分の音声テープやビデオテープを作成し、与えてもよい。あるいは、学生に預じさせてもよいだろう。ただし、会話の部分を学生が音読したり、演じたりする場合、省略形や縮約形、「ええと、あのう」などの化石化につながる表現には、十分注意して使うよう指導していただきたい。各場面でそれらの表現が使われた背景を説明し、正しい形を学生に示し確認した上で、使わせることが大切である。

問題点を指摘するときの表現

指摘するときの言葉づかいは、11ページの「教室での言葉」を参考にしているが、学習者のレベルに合わせて適宜、教師が補足してもかまわない。質問のことばは、「林さんのマナーで、よくないところはどこですか/どこだと思いますか」→「林さんは、どうすればよかったのでしょか?」→「あなただったらどうしますか」と課が進むとともに変えてある。レベルの高い学習者の場合、第1課から、自分だったらと仮定して答えて答えよう指導してもよい。